

# 月刊『潮』が見た 60年（後編）

## 1990～2019

創刊以来六〇年にわたって、時代とともに歩んできた月刊『潮』。大好評企画の後編では、平成から令和に至る三〇年の間に掲載された記事の一部を、年表とともに再録します。（巻頭カラー企画の「特別編」と併せて、お楽しみください）

『潮』編集部・編



・肩書は基本的に掲載当時のものです。また、一部敬称を略しています。  
 ・一部、現在では不適切な表現がありますが、時代背景を尊重し、そのまま引用しています。  
 ・一部、中略した箇所は/で表記しています。  
 ・表記については、編集部で現在の基準に変更、ルビを適宜振り、句読点を補った箇所があります。  
 クレジット表記のない写真は ©共同 (p119～143)

### ドイツ統一と

### ポスト冷戦の構図

高橋進（東京大学法学部教授）

一九九〇年十一月号

初めにドイツ統一の歴史の意味について指摘してみたい。第一は、冷戦を崩壊させたことである。正確には、去年の秋に東欧革命が起こり冷戦の崩壊が始まったが、それを決定的にしたということだ。／第二は、ドイツ統一がヨーロッパでのポスト冷戦の構造をつくる大きなきっかけ、あるいは触媒になっていることである。／第三は、民主ヨーロッパを生み出したことである。ドイツばかりでなくヨーロッパの東西分断もこれで解消されてしまった。日本ではよく大ヨーロッパという表現が使われるが、それこそ本来のヨーロッパであって、分断されたヨーロッパ

は長いヨーロッパの歴史から見れば極めて例外的である。

### 「新連邦条約」をめざす

ソ連のゆくえ

山内昌之（東京大学助教授）

一九九一年五月号

ゴルバチョフはいい意味でも悪い意味でもプラグマティックな政治家である。彼を今日の権力の座につかせた最大の根拠もそこにある。八五年にペレストロイカを進めるべく登場したのも、彼の思想と行動が相互に修正を伴いながら往き来できるという「プラグマティスト」としての面に根拠を求めることができるだろう。つまり、思想と行動のいずれかによって他方が律せられることなく往復運動ができるわけで、こうした希少な資質が彼の最大の利点といっても過言ではない。

## 日本と世界の 60年史（後編）

1990年～2019年

1990（平成2）年

2月11日	ネルソン・マンデラ、27年ぶり釈放
3月15日	ソ連のゴルバチョフ最高会議議長が初代大統領就任
4月1日	三井銀行と太陽神戸銀行が合併、太陽神戸三井銀行誕生
6月1日	ブッシュ米大統領とソ連のゴルバチョフ大統領、化学兵器廃棄協定に署名
7月27日	ゴルバチョフ大統領が訪ソ中の池田大作SGI会長と会談。翌年春に訪日する意向を表明
8月2日	イラクがクウェートに侵攻
9月5日	韓国・北朝鮮、分裂後初の首相会談
9月30日	ソ連と韓国が国交樹立
10月3日	ドイツ再統一
10月31日	池田SGI会長、初来日のマンデラANC副議長と会見